

①		<p>①. クランプ状態 ステアとRG、FGの間に隙間がなく、クランプされた状態です。 チャックに装着時には、チャック側T溝肩部にRG、FGのT肩部が当たり、CBを更に廻す事でRG、FGでステア(爪側クランプ部)を挟み込み 楔効果により、クランプされた状態をいいます。(クランプ力4.6トン)</p>
②		<p>②. 爪取外し動作 CBをレンチ(M6)で「緩め」開始は、緩み防止機構のクラッチが外れ、「カッチ」という感触を感じます。合計4回転廻します。(4回転以上は回さない)写真は、CBをレンチ(M6)で4回転廻し、「緩めた」状態です。 ※ご注意:4回転以上廻し過ぎますと外れます。噛み込んだ場合には、外部からハンマーなどでFGに軽い衝撃を与えてください。</p>
③		<p>③. CBを「緩め」の方向に4回転以上廻した状態 RGは、180度反転した写真です。 RGの裏側には、ストローク制限用の長穴があります。(幅5.5x7.5) 爪側には、RGのストロークを制限するストップピンが打ち込んであります。</p>
④		<p>④. 4回転でFGが「緩んだ」状況でレンチを強く押し込むと、RGの山がステア傾斜部から外れて山が乗り上がる状態になります。セレーションとT溝肩部に隙間(0.2mm位)が出ます。</p>
⑤		<p>ステアからRG、FGがはずれ山が乗り上がる状態となりセレーション部に0.2mm位の隙間が出来る。 ⑤. この状態で、爪は、チャックから完全に外れ外周方向へ引き抜き抜くことができます。 ⑥取付時は、爪を軽く押し込むとRGが山から外れCBを閉めこんで緩み防止機構が働きレンチが回らなくなります。</p>